

VII 参考資料として

1. 学習とコンピュータの利用

(1) ミニコンの教育利用 (CMI として)

日本での学校教育での本格的な利用は、1975年頃から始まりました。たとえば、川島小学校では、1975年からミニコン T-40 を設置し、本格的に学習者 (児童全員) のデータ収集・処理・学習指導の利用が始まりました。

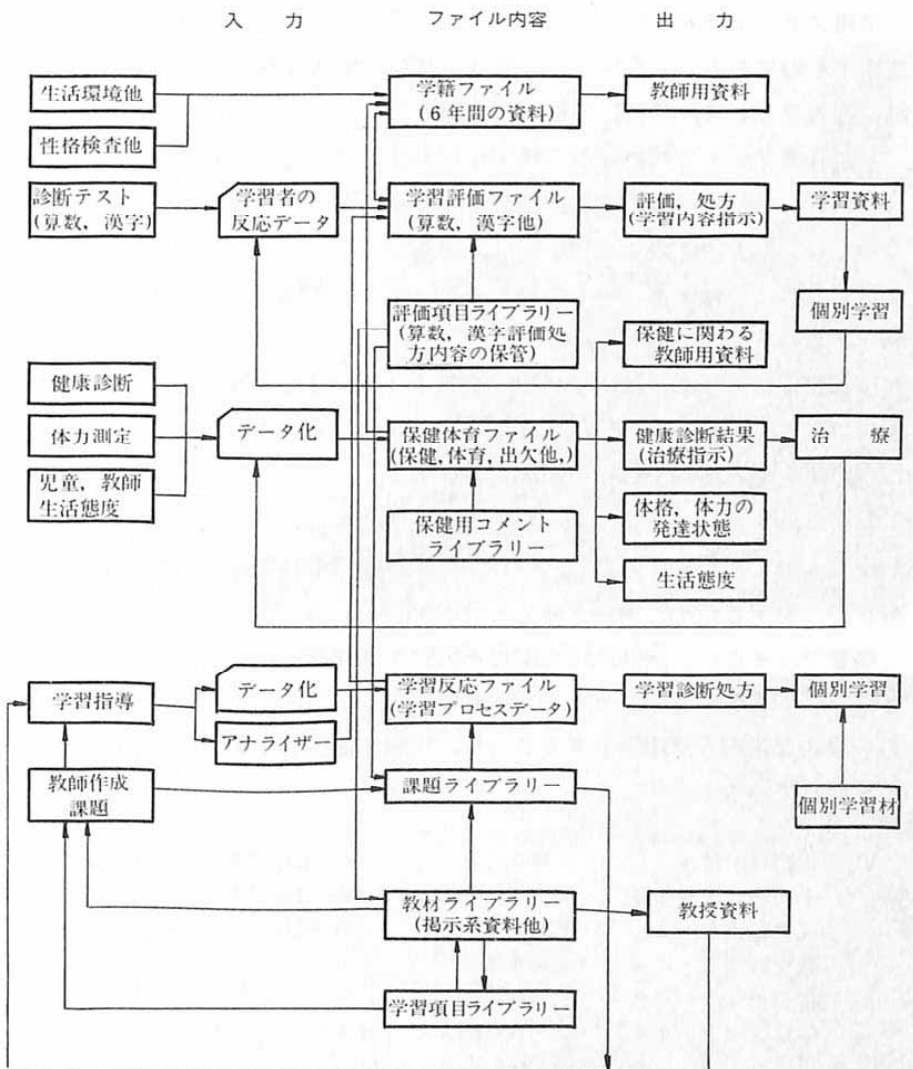


図3 - 65 川島小学校 CMI システムの構成

(2) パソコンの教育利用

その後、パソコンが導入されだし、1985年頃から本格的に利用が始まりました。1990年頃には次の図（OHPシート；後藤）のようなコンピュータ教育利用の説明がなされ、学習活動での利用が進み始めました。

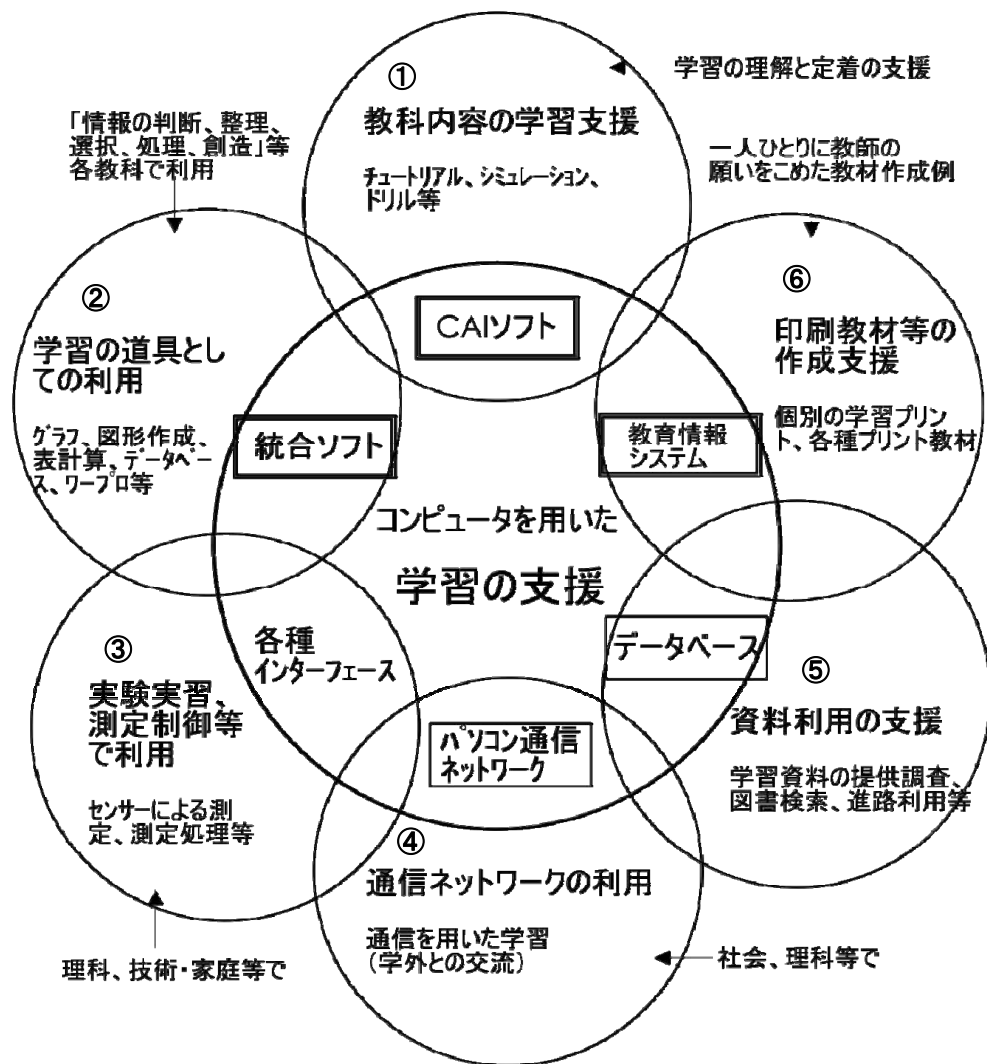


図 コンピュータの教育利用（1990年、後藤）

ぜひ、1990年頃の使い方と現在のタブレット端末等との使い方の違いや、この図からどのように発展しているか調べ、ICTを利用した新しい学習指導の展開を考え、実践して下さい。

(3) コンピュータの利用の状況

(監修 財団法人学習ソフトウェア情報研究センター、編著 後藤忠彦、「学習とコンピュータ」、日本教育新聞社、1992、「1. 教育とコンピュータ」より抜粋)

2. コンピュータの利用の状況

各学校でのコンピュータ利用の状況は、最初にワープロ、成績処理などの学校事務用から始まり、その後に授業で利用されだす例が多い。授業での利用としては、かつては、学習順序に従って教材提示をするドリル学習的な利用が多かったが、学習指導の道具として、主体的な学習活動の道具、学習指導の道具、コンピュータリテラシーなど多様な方法で利用がされだした。特に、情報の判断、整理、選択、処理、創造など、各教科での上布尾の活用に重点が置かれだしてから、ますますその利用法の多様化が進みだした。その利用の現状は、次の図に示すように、学習の定着、理解などの練習や解説指導的な利用から、学習活動の道具として学習者が主体的な利用も進められ、その広がりがみられる。輪之内町の各学校でも、コンピュータが多様な教師の持つ教育的な課題の解決に用いられだした。

① 学習の理解と定着の支援

ドリル学習、個別の解説指導学習での活用は、コンピュータ教育利用の初期から利用されてきた。特に、繰り返し学習したり、誤りの評価に適応して学習を進められる教材は、学習の定着に利用されている。例えば、算数・数学でのドリル学習、フラッシュカード、漢字の筆順、英単語などの学習では、日常的な教育の中で必要に応じて実践されている。その他シミュレーションやデモンストレーションなどで、学習の理解を支援するような教材も多数作られ、それぞれの教育目的に応じて利用もされている。

学習の理解を支援するために、輪之内町の小学校では、国語、算数、理科で、また中学校では、全教科で実践的な研究が進められている。例えば、国語の辞典、漢字のしりとり、算数の計算、中学校などで多様な使い方がされている。

基礎・基本的な学習では、このような学習の定着、理解の支援などで大いに役立てられている。

② 学習活動の道具として各種処理の活用

コンピュータを多くの教科で主体的な学習活動の道具として、情報の判断、整理、選択、処理、創造などでの活用がされるようになってきた。特に、図形作成、表計算、グラフ作成、データベース、ワープロ、さらに、これらの各種の機能を持つ統合ソフトが、児童・正との学習活動の道具として、他の教材・教具と同じように利用されだした。

これらの処理は、各教科で課題を見つけたり、問題解決していくプロセスで利用されている。問題を解決する学習のプロセスでは、このために、学習活動の道具としての処理提供のみでなく、課題の解決に利用できる各種の資料が教材として用意されている。

例えば、小学校の算数では、図形作成用の各種教材データを用意し、展開図、線分図などで操作的な学習活動ができるようになっている。また、理科、技術・家庭科、社会化で

は、調べたデータを入力し、数値計算やグラフを作成し、問題の解決に利用されている。また、パソコンのマルチメディア的な機能を用いた学習活動としては、児童・生徒が音楽の創作活動、映像、音声情報の記録などの処理をして、各自の持つ問題解決にも利用されだした。

③ 実験実習での活用

理科や技術家庭などでは、実験・実習で温度、電圧、時間など各種のデータをコンピュータで計測処理し、学習活動で用いられている。例えば、小学校で1日の地上、地中の温度を調べてその比較をしたり、物体の運動の様子を調べるような使い方もされている。特に、児童・生徒が授業で時間・技術的に調べるのが困難な実験や、より理解を深められるような実験に用いられている。

また、理科などでは、定性的な実験にマルチメディアを使った記録・観察などが始められだし、コンピュータの活用が広がりだした。例えば、植物の開花、成長、その他自然の変化を記録し、問題点を見つけたり、問題を解決するのに用いられるようになってきた。

④ 通信を用いた学習支援

学習の場を教室や学校の中から、パソコン通信を活用して全国的な広がりを持たせ、児童・生徒の視野を広げるとともに、各種の情報を交流し、学習指導も進められている。

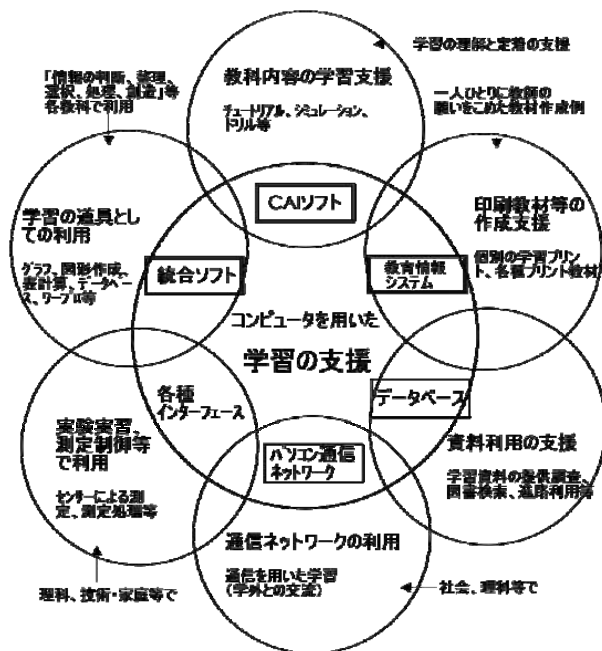
例えば、方言などの学習では、全国各地の方言をパソコン通信で調べるような新しい学習指導の開発も進められている。

⑤ 資料活用の支援

最近では、コンピュータに文字や図形情報のみでなく、音声や映像など多様な資料の記録ができ、資料活用の支援として利用されだした。また、これらの各種の情報を持つデータベースは、印刷教材、実物などいろいろな教材と併せ、授業で活用されている。

例えば、データベース教材では、資料の説明、地図などの文字・図形データ、さらに音や映像なども記録されていて、学習指導に多様な情報を提供し、問題の解決にも役立つようになっている。

特に、社会化や理科の資料集としてのコンピュータの利用では、今後マルチメディアとしての教材が多数開発されることが望まれている。



また、図書館や進路指導室のように、生徒が自由に資料を利用できる場所で、生徒が、データベースを用いて自分の希望する職業に必要な資格を調べ、さらに案内書などでさらに詳しく調べている。

⑥ プリント教材の作成

コンピュータのプリント類の作成は、学習指導でも重要な機能である。例えば、教師の観察結果から、学習者の特性に応じた一人一人に教師の願いを込めたプリント教材をコンピュータで作製、個別に教材の提供が進められている。

このように、学校教育でのコンピュータの利用は、児童・生徒がディスプレイの前で作業するのみでなく、プリント教材など、いろいろな情報提供手段を用いて、学習での活用が進められている。

⑦ コンピュータ導入にあたって

コンピュータを導入し、有効に活用するためには、全教師が使いなければ利用されなくなるため、まず、基本的な操作、教育用の基本的なソフトの研修が必要である。一方、学習指導でコンピュータを使うためには、最初から教師が教材を作るのではなく、まず他で作られた教材を試行し、どのように授業で利用できるか、検討することが第一である。その中から、各教師の授業に適した教材を選択し、利用できるように各種教材を準備すべきである。

輪之内町の小学校、中学校でも、最初から、すべて教材を自作するのではなく、多くの既成の教材を用意し、その中から自分の授業に適した教材を選び利用が始まった。また、小学校では、最初から全教科で利用するのではなく、各学校の教科研究に対応し、国語、理科、生活科、算数での研究的な活用から始められている。

(後藤 忠彦)

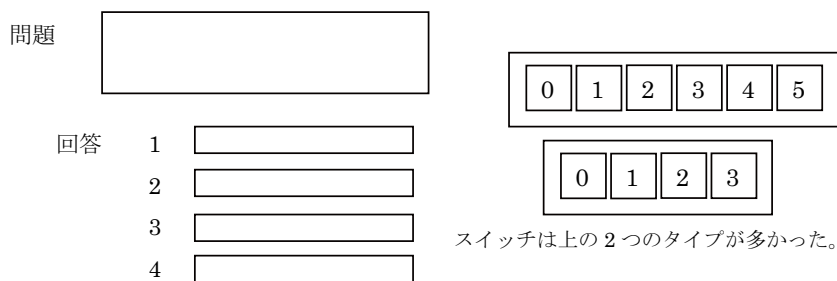
2. 授業中の学習の反応を調べる

(1) アナライザーのスイッチング

先生が授業中に指名した児童の意見に、他の児童がどのように「考えている」「受け止めている」かを知るとき、顔を見れば分かるとよく言われます。しかし、新卒の先生方は実際にどのような状況であるか知りたい、また授業研究で児童の考えがどのように変わっていったかを知りたいとの要望があります。そこで、かつて作成したのが、個人反応記録装置（アナライザー）です。

昔、このスイッチ（SW）の使い方は、大きく分けて2つの方法がありました。

(A) 問題の回答でSWの番号を指定（プログラムの）



正しい回答の番号に○印をつけなさい。



正しい番号のSW番号を押しなさい。

(B) スwitchの押し方を約束し、自由に押させる。

【例】児童の発表・発言について

賛成・分かったら SW3

つけたし SW2

反対 SW1

○先生の説明が分かったら SW3

○実験・実習で分からないときは SW1

終了・完成 SW3

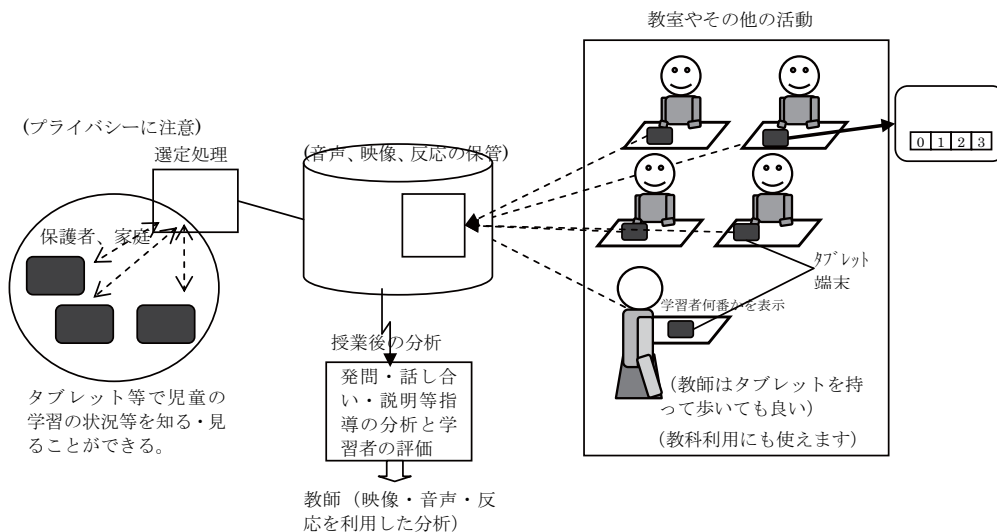
など、自由に押させて、教師は指導や音声と同時に記録し、授業後に分析がされていました。

(2) タブレット端末等での利用

昔のアナライザーは教室の中に配線するため大変でした。しかし、21世紀になり、無線が使われ始め、新しい製品も出てきました。

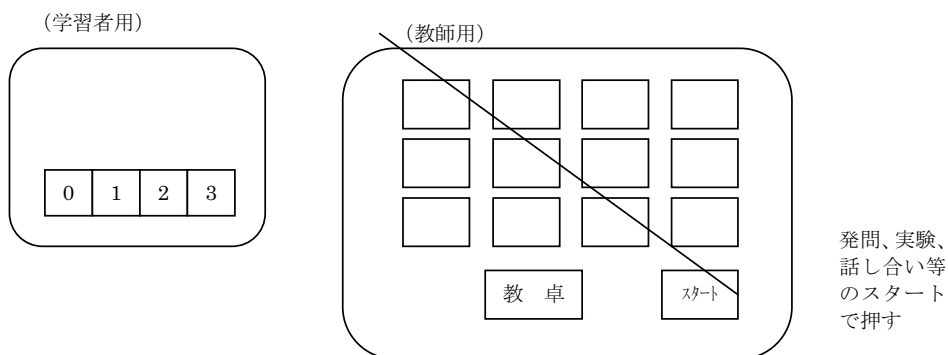
とくに、最近はタブレット端末等を一人一人が用いられるようになり出し、これを上手

に使うのも1つの方法です。



- ① 授業中での学習状況の把握した指導
- ② 授業分析、学習者の反応、音声、映像を時間的プロセスで分析可能
- ③ 保護者が児童の学習状況の把握と指導（知る権利）

タブレット端末の表示



番号を押せば色が変わるようにしてはどうでしょうか。

スタートボタンは、質問や話し合い、実習などの始めからのデータが必要な時に押す。

[授業分析]

映像、音声、反応等の授業研究用に適した処理系を開発してはどうでしょうか。（参考資料はすでに多く報告されています。）

(3) 短冊を用いた学習者の反応記録

名古屋市の片山鍾一先生は、短冊を全児童に渡して、アナライザーの代わりに授業中に指示した順番(番号)の横の(ア)、(イ)、(ウ)に○印を付けさせ、授業分析に利用していました。

〔例〕道徳教育での利用

片山先生は、道徳教育の授業でよく使われていました。

① テープレコーダー

授業を録音(順番の番号の内容を判断)

② 話し合いの時、児童Aが自分の意見を発表すると、先生は、「Aさんに賛成なら(ウ)、反対なら(ア)に丸を付けなさい。」と各児童にAさんの意見に賛成か反対かの印をつけさせていた。(補足意見がある人は(イ)に印をつけさせていた。)

③ 回答を表にして、誰のどのような意見に対し、各児童がどのように反応したか調べていました。

(なまえ)

順番	こたえ		
	1	(ア)	(イ)
2	(ア)	(イ)	(ウ)
3	(ア)	(イ)	(ウ)
4	(ア)	(イ)	(ウ)
5	(ア)	(イ)	(ウ)
6	(ア)	(イ)	(ウ)
7	(ア)	(イ)	(ウ)
8	(ア)	(イ)	(ウ)
9	(ア)	(イ)	(ウ)
10	(ア)	(イ)	(ウ)
	反対	つけたし	賛成

片山先生は、この表から面白いことが分かったと言われていました。例えば、

- ① 自分の考えを絶対に変えない児童
- ② 他の人の意見で、いつも変わる児童(コロコロ変わる)
- ③ 特定の児童に対し、正しくも悪くも反対する児童
- ④ 特定の児童の意見に賛成する児童

など、児童の一面が見えたと言われていました。

この方法は、いろいろな教科で使えますので、ぜひ利用して下さい。

氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	ア	ウ	ア	ウ						
	イ	ア	ア	ウ						
または										
	1	3	1	3						
	2	1	1	3						

(4) 紙切れ (メモ用紙) に考えを書かせる (授業中)

昔、岐阜大学附属小学校の近藤先生 (理科だったと思います) は、使わない紙 (裏紙等) を小さく切り、授業の始めに何枚も渡していました。

[自由に書く] …自分の意見・考え・気づいたこと

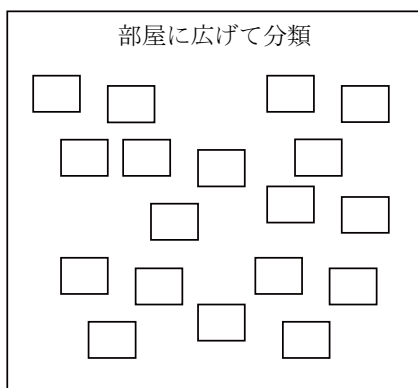
児童に授業中「考えたこと」、「気づいたこと」などを自由に書かせていました。この紙を自宅の部屋で並べて分類し、どのように児童が「考えた」また「気づいた」かを調べていました。

近藤先生が次の授業で

「こんなよい意見、考え方をした人がいました。」

「先生も気づかなかった〇〇〇に気づいた人もいて驚きました。」

などと話されていたと聞きました。

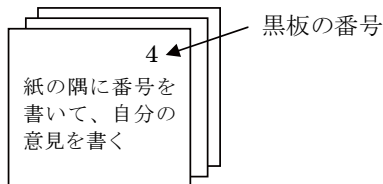
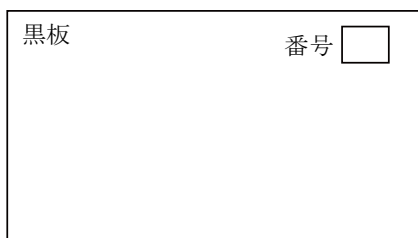


紙を小さく切り、児童が意見や「考えたこと」「気づいたこと」を自由に書かせる

(数～10cm ぐらい)
(裏紙等を利用)

[授業のプロセスで書かせたいとき] …黒板に番号を書く

紙切れ (メモ) に、授業中の特定のプロセス (実習、話し合い等) で書かせたいときには、黒板に先生が番号を書き、児童に紙切れの隅に番号を記入させ、「自分の意見、考え、気づいたこと」などを書かせる方法もあります。



近藤先生は、自由に書かせるために、メモ用紙に児童の名前を書かせませんでした。


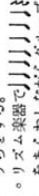
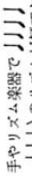
ノートもしっかり書かせていました。しかし、児童の自由な意見を調べるには、児童が気楽になんでも書けるメモが良い、また、児童の意見、考え、気づきを分類するには小さなメモ用紙が役立つと考えます。(1960年～1970年頃の情報です。今も役に立つでしょうか。)

〔参考資料〕 授業計画細目表

小2 体育科 とびばこ		授業計画細目表(1時間、題材用) 小 2年1組(6月10日) 題材名(器具とびばこ)を使った運動(3時中、第8時) 学習内容(開立ててとび箱をとびこす)		6. 処 方	
ア	わ	か	る	5. 評 価	6. 処 方
1. 学習目標(指導目標)	2. 学習活動	3. 教授活動	4. 資料・機器	5. 評 価	6. 処 方
<ul style="list-style-type: none"> とびこすコースド(いきぬい)は助走の長さでなく、ふみ切りから着手までの身となし方で左右されることかわかる。 両手を思い切り切ったとびこしやすいくことがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 5歩助走→8歩助走で4段のとび箱をとんで話し合う。 5歩助走でとび箱を友だちの運動ぶりを見て話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 手をついたあと、腰を振らまげて直前を前へ送り出す。足は、まますい見本をまがけ出す。 よいとびぶりの子を見せ、手をついた位置を確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文部省規格小学校用とびばこ4段のヨコゴ。 文部省規格小学校用とびばこ5段のタテ 	<ul style="list-style-type: none"> 3～4名に指名し、すべての子が隣のまげ方や足の前方へのおくり出しに同じた発言をしたか。 つぶやきで「隣の方や」という声が出るか否か。 	<ul style="list-style-type: none"> Tがゆっくりに踏み切り着手一瞬身を裏返してたしかめる。
<ul style="list-style-type: none"> 5段のたてをたびこせる。 6段の横をたびこせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 4段、5段、6段と全員が赤組習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 踏み切り板に入るホップは大きな足で、踏み切り板の前方へ踏み出す。足は、まますい見本をまがけ出す。足は、まますい見本をまがけ出す。足は、まますい見本をまがけ出す。 踏み切り板に入るホップは大きな足で、踏み切り板の前方へ踏み出す。足は、まますい見本をまがけ出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 文部省規格小学校用とび箱を6～7人に1セットずつ用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 8回つけてとびこせたら白組を前組に変える。 8回つけてとびこせたら白組を前組に変える。 	<ul style="list-style-type: none"> 白組の子に補助をして着手の上を前方へ送り出す感覚を体験させる。
<ul style="list-style-type: none"> 箱の合図(ビッ)でその場でとまるとびこすことができる。 どの場所でもとびこすことができる。 リコーダーが前足をきき、発音者に注意することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ビッの合図があったら、すぐその場でとまるとびこす。 とび箱の横をたびこす。 どの場所でもとびこす。 リコーダーの前足をきき、発音者に注意することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 合図をしても動かない子どもがいたら、意識を喚起して合図をして出す。 足は、まますい見本をまがけ出す。 リコーダーの前足をきき、発音者に注意することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> とぶ子、見る子の位置を示す図(足指) リコーダーの仕事を示した学習カード 	<ul style="list-style-type: none"> 合図して1～2秒の間に板はなかった子の数。 とび箱の横にひとりもいないことかあったか否か。 必要なくときに注意しない回数。 	<ul style="list-style-type: none"> やりなおしをさせる。 練習を中止させ、順番と位置を指示し、リコーダーの前足をきき、発音者に注意させる。 やりなおしをさせる。
<ul style="list-style-type: none"> とび箱や、ふみ切り板、マットがすべらない。 悪ふざけをして、なかまの活動のしやまがないで練習できる。 	<ul style="list-style-type: none"> とびこしたら、マットやとび箱を見て、ズレていたら直す。 とび箱、マットの準備やめとしまつて全員を自分でやる。 とびこしの練習をふさぎないで順番よく行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回指導のとき、ズレが目立ってきたら、注意を与え、なおさせる。 足は、まますい見本をまがけ出す。 リコーダーの前足をきき、発音者に注意することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 器具の出入りを入りを記した学習カード 	<ul style="list-style-type: none"> 必要のないズレをなおさない回数。 順番を乱したり、逸脱行為があった回数。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習を中止させ、ズレをなおさせ、見附ける。 やりなおしをさせ、見附ける。
<ul style="list-style-type: none"> 踏み切り板に入るホップが大きく、まますい見本をまがけ出す。 踏み切り板に入るホップが大きく、まますい見本をまがけ出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 踏み走で、するどいふみ切りを練習する。 踏み走で、するどいふみ切りを練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 踏み切り板に入るホップは大きな足で、踏み切り板の前方へ踏み出す。足は、まますい見本をまがけ出す。 踏み切り板に入るホップは大きな足で、踏み切り板の前方へ踏み出す。足は、まますい見本をまがけ出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 踏み走の足指の位置とTの位置との間に足指がくいるよう、Tは位置の間に足を指さす。 踏み走の足を指さす。 	<ul style="list-style-type: none"> 赤組が白組か。 Tの足の位置を白組で示す。 赤組の足の位置を白組で示す。 事後のプリント 	<ul style="list-style-type: none"> ホップの位置を白組で示す。 補助をTが行う。

小2音楽科 ふしぎなゴケット

授業計画補目次(1時間、単元用) 小2年1組(月 日) 教科(音楽) 単元名(ふしぎなゴケット)(2時中、第1時) 学習内容(フレーズのまとめり)

	1. 学習目標(指導目標)	2. 学習活動	3. 教授活動	4. 資料、機器	5. 評価	6. 処 方
ア わ か る	<p>ア1</p> <p>(1) 2つのフレーズのまとめりとして、 a フレーズ(鉄壁) b フレーズ(順次進行) であることがわかる。 (2) 速度的変化による感じのちがいを、④番は①、②番はふつう、③番はゆっくりであることがわかる。</p>	<p>ア2</p> <p>◦ 範唱レコードを聞いて自由に手をうつ。 ◦ 範唱レコードに合わせて歌う。 ◦ 拍うちをし、フレーズの切れめで手をひらひらさせる。 ◦ フレーズごとにビスケットのペーパーサートを上げる。 ◦ フレーズごとに交代して歌う。</p>	<p>ア3</p> <p>◦ フレーズごとにうたわせた拍うちをさせる。 ◦ フレーズごとにペーパーサートを上げさせる。</p>	<p>ア4</p> <p>◦ 範唱テープ ◦ ビスケットのペーパーサート ◦ 教科書</p>	<p>ア5</p> <p>◦ フレーズごとに交代して歌えたか。 ◦ フレーズごとに手を広げることができたか。 ◦ フレーズの切れめで、ペーパーサートを上げることができたか。 ◦ 速度のちがいがわかったか。</p>	<p>ア6</p> <p>◦ ビスケットの敷に着目させ、そこで切れめをみつけさせる。</p>
イ で き る (感 受 性) ウ 能 度	<p>(1) の拍うちをしながらかける。 (2) ゴケットをたたきながらビスケットが1つ2つとよめる夢の世界を身体表現をして歌うことができる。 (3) 速度のちがいを感じとって表情豊かに歌うことができる。</p>	<p>◦ 範唱レコードに合わせて拍うちをする。 ◦ リズム楽器で  をあらわしながらグルーブ演奏をする。 ◦ 歌をうたいながら、ゴケットをたたいたり、ビスケットがとび出したりする動作の表現をする。</p>	<p>◦ テープを聞かせ、拍うちをさせたり、歌いながら手で拍うちをさせたりする。 ◦ グループにタンブリン、すずを1つずつ与え、楽器で拍うちをさせる。</p>	<p>◦ 範唱テープ ◦ タンブリン、すず ◦ 教科書</p>	<p>◦ 手やリズム楽器で  のリズムが打てたかどうかが。 ◦ 音楽に合わせて感情をこめた身体表現ができたか。 ◦ 感情をこめて表現豊かに歌えたか。</p>	<p>◦ できない子の近くで、一緒に拍をうつってみせたり、肩などをたたいて拍を示す。</p>
	<p>(1) 楽しく、すんでリズム楽器を演奏したり、歌ったりする。 (2) 友だちの演奏をゆかに聞く。 (3) 友だちの演奏に対する意見がもてる。</p>	<p>◦ グループで交代にリズム楽器を演奏させる。 ◦ 良いところや、なおしたいところをみつけ、意見をいう。</p>	<p>◦ グループで交代にリズム楽器を演奏させる。 ◦ 「よかったこと」、「もっとがんばってほしいこと」を話させる。</p>	<p>◦ タンブリン、すず</p>	<p>◦ リズム楽器を使うとき、積極的によりくめたか。 ◦ 友だちの演奏を聴いた後に手をあげて意見の発表ができたか。</p>	


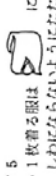
小3国語科 中心部分を明確にした作文

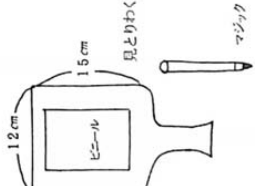
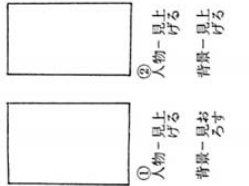
授業計画編目表(1時間、単元用) 小3年4組(9月20日) 教科(国語) 単元名(中心部分を明確にした作文を書こう)(2時中、第2時)

	1. 学習目標(指導目標)	2. 学習活動	3. 教授活動	4. 資料、機器	5. 評価	6. 処 方
ア わ か る	ア1 。書きたいことを分かってもらうには、中心部分が必要であることが分かる。	ア2 。中心部分が明確な作文をみんなで読む。 。中心部分を読みとれたところに線をひく。 。中心部分と読みとれたところを他の学習者と比較する。	ア3 。中心部分が明確な作文を読ませ、みつけさせる。 。(個別指導) 。中心部分が存在しない作文を提示して説明する。	ア4 。プリント	ア5 。中心部分がみつけれられたかどうか。 。中心部分を読みとれたところに線がひけたか。	ア6 。中心部分をとってみる。
イ で き る	イ1 。中心部分が明確な組み立てメモによって作文が書ける。	イ2 。中心部分を明確にして短作文を書く。 。中心部分がよくわかるはじめ・おわりのメモをもとに作文を書く。	イ3 。中心部分を発表させ、明確にさせる。 。中心部分がよく分かるか他の学習者と交流する。	イ4 。プリント 。原稿用紙	イ5 。中心部分がしっかり決めて書けたか、ひとりひとりの作文を読む。	イ6 。一番多く書けそうなところを選びさせる。 。個別指導
ウ 考 え 方	ウ1 。書きたい(主題)をより具体化したものが、文章構成であるという考えを身につける。	ウ2 。書きたいことの前後に、はじめとおわりを加える。	ウ3 。はじめとおわりは、書きたいことに関係したことであることを作文を読ませ、みつけさせる。	ウ4 。プリント 。原稿用紙	ウ5 。はじめとおわりの部分を書けたか、ひとりひとりの作文を読む。	ウ6
エ 見 方	エ1 。正しい姿勢で鉛筆を持ち、正確に記述出来る。 。相手意識を持って作文の構想が立てられる。	エ2 。背骨をのぼして、目とノートの間を8.0cm以上離し、顔字、脱字に注意する。 。読んでもらう相手を決める。	エ3 。正しい姿勢を示し、顔字、脱字があればなおさせる。 。墨に読んではいいか、決めさせる。	エ4	エ5 。正しい姿勢かどうか観察し、顔字・脱字に気がつき、なおせられたか。 。読んでもらう相手を決められたか。	エ6 。正しい姿勢の子をはめる。

	1. 学習目標(指導目標)	2. 学習活動	3. 教授活動	4. 資料、機器	5. 評価	6. 処 方
ア わかる	安易に人を疑うことなく、事実をはっきり見つけたいことが大切であることをわかってもらう。	どうしてかずお君をこんな気持ちにさせてしまったのだろうかというのを考える。	和歌にこだわり、事実をよく確かめたいで、疑ってしまうことなく気持ちをあらわすことに気づかせる。	「早く色のことに気づけば……」に着目させる。	「きなつのでなく、かずお君の言いたいことを聞いてやるべきだ」と話し合われていた。	かずおの会話の部分が少ないことに着目させ、どうしてか考えさせる。
イ できる	人の話や周りの雰囲気によって軽率に人を疑いがちである自分をふりかえり、これから重要をよく確かめていこうとする気持ちをもちたい。	軽率に人を疑ってしまいがちな自分の経験を想起し、書き、友だちの自分の見つけ方を参考にしよう。	主人公や学級の友だちの話を聞いて、疑いをなくし、自分の見つけ方をほめ、広める。	実践意欲のあらわされている友だちのノートに耳をかたむけさせる。	自分のいたならなきを見つめることや、主人公や友だちのすばらしさにあこがれを持って書いたか。	身構えができている子の内面がどうなっているか、聞いてみる。
ウ 考え方	和歌にこだわり、人を疑いかけ弱い自分であることを克服するために、相手の気持ちを思いはかかせることができる。	疑われた相手の心の叫びを想像して、主人公の後悔している気持ちを話し合う。	疑われた相手の心の叫びをさしはからせ、自分が後悔しているわけをさぐらせる。	「『ごめんな』とあやまりましたか……」 「何かすごく悪いことをしたような気持ちになりました」に着目させる。	かずおの心の叫びの中に事実をつかみきれないでいる主人公たちへの怒りが話し合われていたか。	「何もいわず、下を向いているかずお」の心の叫びを書かせる。
エ 見方	かずお君の和歌にこだわり、人を疑いかけ弱い気持ちからわかれるとわからない面々の見方ができ、きめつけてしまったことについて話し合うことができる。	かずお君を、安易に疑ってしまったばかりについて自分の経験を想起させ、きめつけてしまったばかりについて話し合う。	かずお君を安易に疑ってしまったのは、ぼくの心の中にどんな気持ちがあったからかを、自分の経験につなげて、わかるわからないの判断をもたせる。	「かずお君、気をつけてくれよ」までの1ばんの作品製作に対する気持ちに着目させる。	「かずお君気をつけてくれよ」について、わかるわからないについて話し合おうとすることができたか。	「こんな時、うたがいたくなるのかな」という疑問によって経験を想起させて考えさせる。
オ 学習力	道徳授業に必要な基礎的な学習マナー(態度)を身につける。	経験を思いだしてうたづいて聞いたり、つけだしで話し合うことができる。	「～につなげて」「～に反対ですが」という発言をさせる。よきな疑問をする。	道徳ノート 復書	うなずいて聞けたか。 主人公や友だちの話し合いついてつながりがあったか。	「今言った子の意見どう思う」 「どうしてそう考えるの」と問い返すことにつながってつながりをもたせる。

小5家庭科 洗たく物のあとしまつ 授業計画編目表(1時間、単元用) 小5年4組(9月30日) 教科(家庭) 単元名(漸進的な下着)(7時中、第7時) 学習内容(洗たく物のあとしまつ)

	1. 学習目標(指導目標)	2. 学習活動	3. 教授活動	4. 資料、機器	5. 評価	6. 処 方
ア わ か る	ア1 ・洗たく物のたたみ方がわかる。 ・整理ダンスの中へ入れる方法がわかる。	ア2 ・たたみ方の方法をしらべる。 ・整理ダンスの整理の方法を調べる。	ア3 ・グループの下着を一枚所に整理したり出したりして、次に着る時着やすい方法がわからせる。	ア4 ・OHP ・資料集 ・整理ダンスの引き出し ・洗たくした下着	ア5 ・たたみ方がわかったか。  ・整理ダンスの入れ方がわかったか、行動を観察する。	ア6 ・たたみ方が資料を見てわからない時は助言する。
イ で き る	イ1 ・たたくことができる。 ・整理ダンスの中へ正しく入れる事ができる。	イ2 ・いろいろなたたみ方をする。 ・班の友達の人連のシャツを整理ダンスに入れてみる。	イ3 ・資料を見てたたみ方やまき方をやらせる。 ・整理ダンスの中へ入れさせる。	イ4 ・洗たくした下着 ・整理ダンスの引き出し ・厚紙(区切り用)	イ5  ・1枚着る服は洗たくしたものに洗たくしないようにたたむことができる。 ・下着の折り畳みに整理できただか。 ・引き出し等へ入れられたか、行動を観察する。	イ6 ・整理ダンスなどに入れられない時は、資料を見て行なわせる。
ウ 見 方	ウ1 ・下着を肌の上には着るが、上着として活用するものを区別する。 ・資料をもとに自分のくらしを思い出す。	ウ2 ・出しやすい整理の方法を見分ける。	ウ3 ・資料を見させる。	ウ4 ・整理した引き出し	ウ5 ・衣服の区別ができたか。(料、袖で見分ける) ・自分のくらしが見られたか。(考えられたか)	ウ6 ・自分のくらしが思い浮かばない子は、友達の話の中で思い起こさせる。
エ 学 習 力	エ1 ・下着の区別によって整理の方法を考えた方がよい事を学びとらせる。 ・グループの友達と協力して下着の整理をし、出しやすさを体験させる。	エ2 ・いろいろなたたみ方をする中でよい方法を身を持って感じとらせる。 ・整理したものを取り出すことにより出しやすさを体験させる。	エ3 ・いろいろなたたみ方をする。 ・整理ダンスなどへ入れさせる。	エ4 ・整理ダンスの引き出し ・かご箱	エ5 ・グループで協力できたか。 ・学習ノートの反折 ・学習ノートの記録	エ6 ・仲間に入らないでいる人がいたら仲間で行えるよう助言する。

	1. 学習目標(指導目標)	2. 学習活動	3. 教授活動	4. 資料、機器	5. 評価	6. 処 方
で き る	<ul style="list-style-type: none"> みとりわりわくを使って主題を表そうとする背景をさがすことができる。 主題を表そうとした背景をさがし、画面に書き入れることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 見とりわりわくの使い方を知って自分がいいたいと思う背景をさがす。 さがした背景を見とりわりわくにつけられたビニールにマジックで背景の様子をかき、下絵に見とりわりわくをあてて下絵に合う位置をみつつけてかく。 	<ul style="list-style-type: none"> 示箱を使い方をわからせる。 どんな様子が見られる(か)期待感を持たせる。 示箱をし、うでを動かさないうで見とりわりわくの中に確かにかき入れることを教える。 個別に作業をみて、見とりわりわくと下絵に書き入れる手助けをする。 		<ul style="list-style-type: none"> 対象(人物)だけを置いておいた下絵よりも、自分の表そうとする感じが強く表れてきた画面になったか自分で判断する。 (また、教師がみる) <ul style="list-style-type: none"> 自分かみていた視点によつて、より見上げていて感じ、より見おろしていて感じが表れてきたか。 自分がよく大きく強そうにみえてきたか。 自分の体や顔拍か動きをもってきたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 下絵と見とりわりわくの線との関係をしっかりとみさせ、あうかわかないか判断の基準を示し、見つけさせる。
み か た	<ul style="list-style-type: none"> 対象をとらえた視点から背景を表すことは自分の主題がよりよく表現される見方であることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 二つの資料からどちらが主題に合った背景なのかみつけ、その理由を考え、明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 比較してわかる二つの資料をみせて感じのちがいを発表させ、その中から視点のちがいによって主題の表現の様子がちがうことをわからせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 下絵の画面に表された背景がより対象の感動迫力を増すものになったか。 画面に表されている自分を見ても、か、かっこいいとか、か、かっこいいとか、自分の気持ちが感じられるか。(主題) 	<ul style="list-style-type: none"> 背景のちがいがいによる感じのちがいを教師のことはで示唆してわからせる。
態 度	<ul style="list-style-type: none"> 対象をとらえた時の気持ちと、下絵に描いた時の気持ちを継続して背景をさがそうとする態度がもてる。 見とりわりわくを用いて自分の視点から背景をとりに入れようか何度も試みる態度がもてる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単に見とりわりわくを使ってみるという態度でなく、うでをのばしたり、曲げたりしてひとりひとり自分が自分の背景をみつつけようとする。 いろいろな場所に出てみつけようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の主題を確認させ、常に追究態度を持たせることによって真剣に表そうとする気持ちを持たせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 下絵と見とりわりわくの中を交互に見くらべて、自分の主題に合った背景をさがす態度がもてるか、自分で判断するとともに教師もチェックする。 いろいろな場所へいき、いろいろな顔のほし方をしてみることでできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の主題をいわせてそれにあう背景をさがしの実態を子どもにもとにする。

小6国語科 作文の世界を広げる
 新文芸語彙目録(1)訂正、修正(中) 第6年2組(5月20日) 教科(国語) 単元名(作文の語彙目録) 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841. 842. 843. 844. 845. 846. 847. 848. 849. 850. 851. 852. 853. 854. 855. 856. 857. 858. 859. 860. 861. 862. 863. 864. 865. 866. 867. 868. 869. 870. 871. 872. 873. 874. 875. 876. 877. 878. 879. 880. 881. 882. 883. 884. 885. 886. 887. 888. 889. 890. 891. 892. 893. 894. 895. 896. 897. 898. 899. 900. 901. 902. 903. 904. 905. 906. 907. 908. 909. 910. 911. 912. 913. 914. 915. 916. 917. 918. 919. 920. 921. 922. 923. 924. 925. 926. 927. 928. 929. 930. 931. 932. 933. 934. 935. 936. 937. 938. 939. 940. 941. 942. 943. 944. 945. 946. 947. 948. 949. 950. 951. 952. 953. 954. 955. 956. 957. 958. 959. 960. 961. 962. 963. 964. 965. 966. 967. 968. 969. 970. 971. 972. 973. 974. 975. 976. 977. 978. 979. 980. 981. 982. 983. 984. 985. 986. 987. 988. 989. 990. 991. 992. 993. 994. 995. 996. 997. 998. 999. 1000.

1. 学習目標(指導目標)	2. 学習活動	3. 教授活動	4. 教材、機器	5. 評価	6. 処方
ア1 前項までの8時間で理解したこと。 ・今まで書いた作文はどれくらいあったこと、楽しかったことなどの思い出が多いこと。 ・これからはつらいことや苦しいこと、自然や社会、働く姿に目を向けていくこと。	ア2 ・自分のみつけた題材をプリントに記入する。 ・友だちのみつけた題材を聞いて(学習使用)自分の題材の趣けをし、必がに記して修正する。 ・文章の組み立てについての留意事項を教員より聞いて再確認する。必ずプリントはメモする。 ・留意事項を参考にして文章の組み立てをする。	ア3 ・上記ア1の内容を具体的な文章の生活と結びつけることにより、学習使用)自分の題材をみつめるよう励ます。 ・文章の組み立てについての留意事項を説明する。 ・留意事項を参考にして文章の組み立てをする。	ア4 ・OHP ・生活ノート	ア5	ア6 ・教師の作成した下記の内容のプリントを配布 ・楽しい題材例 ・楽しい文章の組み立て例 ・楽しい文章表現例
イ1 白紙、作文用紙として では気づかない単語も 見方考え方を転換され ば、今まで気づか った生活の中の発 見、手紙など 素材であるという見方 考え方	イ2 ・上記イ2、イ3の学習点 動を必ずよくする。	イ3 ・イ3の学習点(動を必ずよくする)をよくする。	イ4	イ5	イ6
ウ1	ウ2	ウ3	ウ4	ウ5	ウ6
エ1 エ2 エ3 エ4 エ5 エ6	エ1 エ2 エ3 エ4 エ5 エ6	エ1 エ2 エ3 エ4 エ5 エ6	エ1 エ2 エ3 エ4 エ5 エ6	エ1 エ2 エ3 エ4 エ5 エ6	エ1 エ2 エ3 エ4 エ5 エ6
オ1 オ2 オ3 オ4 オ5 オ6	オ1 オ2 オ3 オ4 オ5 オ6	オ1 オ2 オ3 オ4 オ5 オ6	オ1 オ2 オ3 オ4 オ5 オ6	オ1 オ2 オ3 オ4 オ5 オ6	オ1 オ2 オ3 オ4 オ5 オ6

小6社会科学 貴族の世の中
 授業計画細目表(1時間、単九用) 中 6年2組 (5月20日) 教科(社会) 単九名(貴族の世の中 (1,3) 当中、第8時)

	1 学習目標(指導目標)	2 学習活動	3 教科活動	4 資料、機器	5 評価	6 処 方
ク 考 え 方	ク1 貴族の政治のあり方を、民衆の立場に立って考えることが出来る (農民の生活の苦しさを社会的宿命として考えられる)	ク1 写真や資料から、当時の地方の農民の生活の様子が予測できる 農民の暮らしのわかる資料がみつけられる ク2 税についての教師の説明を聞き、農民の暮らしが貧しいわけを考え、プリントに記入する 字秘密全体での話し合いを通し、自己の考えをより探め広める (プリントに書くことを通して)	ク3 税についての説明をする 税についての説明をする (資料の活用しにくい児童には個別指導をする)	ク4 税の取り立ての厳しさを資料から説明する 税の重さを説明する (上記の教師の説明に対して、どんな考えを持ったか、プリントに通時記入させる)	ク5 プリントの記入状況による	同上
エ 見 方	エ1 地方の農民の暮らしを、都の人との暮らしと対比して見ることにより、階級的な物の見方を育てる	エ2 都の人の暮らしを前時のOHF用(衣食住、製作、大仏作り)を見ている エ3 前時の学習をOHFを提示して想起させる	エ4 OHF	エ5	エ6	同上
イ 字 写 力	イ1 学習情報、教師の説明、友だちの話を聞いて、自分の考えを確立する	イ2 プリントで自分が考えをまとめ、意見交換を交わし合う 意見交換の結果をプリントに記入する	イ3 自分の考えをまとめ、意見交換を交わし合う 意見交換の結果をプリントに記入する	イ4 自分の考えをまとめ、意見交換を交わし合う 意見交換の結果をプリントに記入する	イ5 プリントの記入状況による 自分の考えを交わして意見を交換する 意見交換の結果をプリントに記入する	イ6 プリントの記入状況による 自分の考えを交わして意見を交換する 意見交換の結果をプリントに記入する

[参考資料] 前データの説明は、岐阜女子大学 教育実践研究資料 No.1～No.6 で紹介しています。

- No.1 発問と応答・学習プリントをつくる
- No.2 「授業の構成と学習指導法」を考える
- No.3 授業研究と資料の利用
- No.4 授業の「まとめ」の指導を考える
- No.5 粘り強い学習指導
- No.6 論理的思考操作を支える言葉の指導

算数の思考力・判断力・表現力の基礎としての

論理的思考活動を支える言語力育成

編著：後藤忠彦・松川禮子・長尾順子・佐々木恵理、NPO 法人日本アーカイブ協会（2014）

※ 教育実践資料の内容については、「過去の教育研究資料と現在の実践を結ぶ」を参照して下さい。